

THE WEEKLY NEWS OF EAST KISARAZU



国際ロータリー第 2790 地区
木更津東ロータリークラブ

2021-22 年度

●例会日 毎週水曜日 PM12:30~1:30 ●例会場 オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111
●事務局 木更津市朝日 1 丁目 2-29 シグママンション朝日 B 棟 105 号 TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

2021-22 年度国際ロータリーテーマ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために SERVE TO CHANGE LIVES

第 1 3 回例会 NO.2534 2021 年 10 月 20 日



■司会進行 渡部和夫 SAA



◆点鐘 12時30分 渡邊慎司会長
◆Rソング斉唱 「手に手つないで」

◆出席 会員 42名 ◆出席率 68.42%
出席 26名 ◆前々回出席率 76.31%
欠席 16名 ◆修正後出席率 78.94%

◆欠席者【敬称略】
石井文子・大岩もえ・大里光夫・叶川博章・
金見和子・嶋津正和・鈴木秀幸・趙 亜南・
中野麻美・林田謙志・藤野宏治・宮寺順子

◆メイクアップ
・10/4 地区RLI委員会 山田修平
・10/9 地区諮問委員会 山田修平
・10/15 第4回地区ロータリー財団委員会 堀内正人

◆四つのテスト 堀内正人会員



ホームページ <https://kisarazueast-rc.jp>

木更津東ロータリークラブ

会 長 渡 邊 慎 司
会 幹 吉 田 和 義
編 集 大 岩 も え

国際ロータリー第 2790 地区

RI 会 長 シェカール・メータ
地区ガバナー 梶 原 等
ガバナー補佐 鈴 木 荘 一

■会長挨拶・報告

渡邊慎司会長

今月は米山月間という事もあり、第2790地区米山記念奨学会委員長の森秀樹さんをお迎えして卓話をして頂きます。本来ならば会長挨拶の中でも米山について触れるところですが、今回は卓話でのお話を楽しみにして頂き、私はポリオ撲滅活動についてお話をさせていただきます。



ポリオは古代エジプト時代からあるウイルスです。病原菌が発見されたのは1948年にアメリカにおいてでした。その後、ワクチンの開発により少しずつ感染地域が減っていきました。日本では1980年の1例を最後に現在まで野生のポリオウイルス感染者はいません。現在のコロナもそうですが、ワクチンによる免疫効果によりウイルスを封じ込める事が出来るのです。

そして国際ロータリーとポリオとの関係は、1979年にフィリピンにおいて経口ポリオワクチンを600万人のこどもに予防接種を施すという計画からスタートしました。1982年のRI理事会において、ロータリー創設100周年の西暦2005年までに、全世界の児童にポリオワクチン接種を行うという目標を採択しました。当時は5年間で1億2000万ドル(当時の円換算で240億円)の費用が必要であり、大部分をロータリーの寄付金で賄うという計画でした。当時の日本での寄付目標は40億円で、半分の20億をロータリーで、その他の20億を財界やその他団体からの寄付とする目標を掲げ、2年間で22億円の寄付金を集めたそうです。1989年11月末には目標の40億円を達成し、全世界においても、1989年11月時点で2億ドル(円換算280億円)もの寄付金を集めたそうです。

大きくポリオ撲滅活動が進むきっかけとなったのは、1988年にGPEI(Global Polio Eradication Initiative)を世界保健機関などの他団体と立ち上げたことにより、世界的活動へと移っていきました。1988年当時125カ国、35万人のポリオ患者がいたとされています。その発源地域にワクチンを届ける事によって、ポリオ撲滅を目指しました。しかし、経口ワクチンを発源地域の子供たちに摂取させることは大変難しい活動でした。ワクチンを低温で保管する場所や、ワクチンに対しての知識や認識不足による反対や、戦争や紛争地域といった多くの問題がありましたが、地元政府や地元のボランティア、そしてロータリアンの努力より感染地域一つずつ確実に減らしてきました。

また、ポリオに対する寄付金として忘れてはならないのはビル&メリンダ・ゲイツ財団です。2007年に1億ドル、2009年に2億5500万ドルがロータリーに供与され、2013年からはロータリーが集めた寄付の2倍を上限3500万ドルの寄付をする約束をし、その後上限を5000万ドルに引き上げました。ポリオ撲滅のための資金はロータリーが約25%、ゲイツ財団が33%、各国政府が33%でその他は全世界からの企業などだそうです。

現状では1988年から比較するとポリオ発生

率は99.9%減少しています。現在野生型ポリオウイルスの発生が報告されているのは、アフガニスタンとパキスタンの2カ国のみです。しかし、世界から完全にポリオを根絶しない限りこの活動は終わることが出来ません。ウイルスが残っている限り再度拡大する心配があるからです。この活動をストップした場合、10年後には年に20万人もの子供がポリオによる麻痺障害に侵される可能性があると言われています。

毎年11月にロータリー財団への寄付を募りますが、MY ROTARYから寄付をすれば、ポリオへ撲滅への寄付をすることが簡単にできます。ポリオに対する寄付もポール・ハリス・フェローの認証の対象となっています。

また、10月24日は世界ポリオデーとし、ポリオ撲滅活動に対する現状の認識と、地域の人々への寄付の呼びかけなどを推奨しています。2790地区では各クラブにおいてポリオ撲滅祈願を実施することを呼びかけています。当クラブも10月24日に宮寺会員の高蔵寺において実施する事になっていますので、ご都合の合う方は参加頂きたいと思っております。

人類の歴史はウイルスとの戦いだったと学者の方が述べていましたが、まさにその通りでコロナウイルスについても数年後にはインフルエンザと同様の感染症となることでしょう。まずは一日も早い収束を願うばかりです。

■幹事報告

吉田和義幹事

1. 幹事報告

1) 10月米山奨学会への寄付金のご案内をいたしました。11月末頃まで受け付けておりますので、引き続きよろしく願いいたします。



また、11月にロータリー財団への寄付のご案内も予定しておりますので何卒ご協力くださいますようお願いいたします。

2) 2021-22年度ガバナー事務所より 日本経済新聞社【10月22日朝刊全国版】一面広告掲載についてのお知らせが届いておりますので回覧いたします。

3) 2022-23年度事務所より「2022-23年度地区委員ご推薦のお願い」が届いておりますので回覧いたします。

2. 他クラブからのお知らせ

1) 印西RCより「送付先変更のお知らせ」が届いておりますので回覧いたします。

2) 君津RC・上総RCより「週報」が届いておりますので回覧いたします。

3. その他のお知らせ

特になし

4. 回覧

・2021-22年度ガバナー事務所より 日本経済新聞社【10月22日朝刊全国版】一面広告掲載についてのお知らせ

・2022-23年度事務所より「2022-23年度地区委員ご推薦のお願い」

・印西RCより「送付先変更のお知らせ」

・君津RC・上総RCより「週報」

■委員会報告

◆雑誌・姉妹クラブ委員会 阪中昌司委員長
【ロータリーの友 10月号の紹介】



【横組み12ページ】

よねやまだより

1998年12月に掲載された『山月記(さんげつき)』の「虎」(山月記は1942年発表、中島敦の短編小説)から四半世紀経った今の心境を当時米山記念奨学生だった金翼水(キムイクス)氏が語っています。

『山月記』の虎は、人のこころのうぬぼれとねたみを意味しています。たとえ生まれつきの才能に恵まれなくても、広く学び、努力し、自分の可能性を最大限に生かす人こそが、この社会で最も立派な資産であり、それこそが非凡な才人だと述べています。そして、“最も平凡なことが真の非凡である”という心構えで一つの道を歩んできて、「今の社会のために自分が出来ることは何か」ではなく、「自分が最も力が発揮できることは何か」を常に考えて生きてきたと語っています。今につながる人生は、米山奨学生から始まったもので、人の大切さや思いやり、そして奉仕の心を学んできたので、未来に羽ばたく新たな非凡な人間を育てるために力を入りたいと語っています。

【横組み18～19ページ】

ロータリアンになった学友にロータリーを好きになった理由を聞いています。

【横組み24～25ページ】

RI指定記事 多様性・公平さ・インクルージョンへのロータリーのコミットメント

ロータリーでは、多様性、公平さ、インクルージョン(包括・包含)を重視しています。どのような人か、また、ジェンダーや性的指向、宗教、障害の有無、出身国や文化が何かは重要ではありません。重要なことはただ一つ、持続可能な良い変化を生むために行動したいという意思だけです。

【縦組み4ページ】

グローバルとローカル現代世界の中の

「地方創生」
前千葉大学理事副学長 山田賢(やまだまさる)氏の講演(ホスト成田RC)

グローバルへの志向とローカルへの志向は相反する方向性と理解されていますが、重要なのは、グローバリズムへのむやみな反発ではなく、「ローカル」を冷静に再構築していくための理知ではないでしょうか。

2019年7月に内閣府で検討された「地方創生の現状と今後の展開」で提唱されたのが、第一に「関係人口」という考え方で、都市部から地方への直接的な人口移動を促すより、地域社会との関係を維持する「関係人口」を創出・拡大し、将来的な地方移住という「人の流れ」をつくるという発想です。第二はSDGsの重視。第三は、企業と積極的に連携し、企業投資による地方への資金の流れを強化する方向性です。

こうした観点から見ると、千葉県は、成田空港と東京に近接するゆえに「関係人口」の誘因、あるいはローカル・イノベーションの成果を日本の市場、さらにはグローバルな市場に連結するにあたって、有利な条件が備わっていると言えます。それを更に強化するには、ブランド化が必要ですが、地元の人よりも学生等の「よそ者」からの視点から地域の魅力をプロデュースする方が効果があります。

私たちは、「地方から世界へ」発信できる地域社会ならではの独自の魅力を、まさに今、自分たちが住んでいる地域から掘り起こし、探求する努力を続けていくことが大切です。

【縦組み9ページ】

この人を訪ねて

遠山昌子さん元タカラジェンヌで漬物メーカーの6代目社長

子供のころに憧れた宝塚に入るために自宅から往復5時間かけて学校に通い、最後の4回目の挑戦で見事合格、同期で8番まで成長しましたが、祖父の病で後継者不在だったことから退団し、後を継ぎました。始めは社長として周りから認められなかったとのことですが、大学の通信制で経営を学び、自ら手掛けた商品がヒットするなどして、経営者として認められるようになったとのこと。

経営理念は「笑顔の伝承～200年企業を目指して～」、そのために商品開発や海外展開にも力をいれたいとのこと。RCでは明るく、何を頼んでも嫌と言わずにやってくれて引っ張りだこで、将来クラブを背負って立つ逸材とのこと。

【縦組み13ページ】

卓話の泉 菓の使い方

菓の種類や飲み方等が分かりやすく解説されているので勉強になります。



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

◆青少年奉仕委員会 小林裕治委員長



11月21日桜植樹、皆さまふるってご参加お願いします。

◆米山記念奨学会委員会 豊田文智委員長



本日は米山奨学事業の卓話を森秀樹様より頂きます。寄付もまだ受け付けておりますので、よろしくをお願いします。

◆国際奉仕ロータリー財団委員会 倉島和広委員長



今月はロータリー財団月間です。皆さんご寄付をお願いいたします。

◆ニコニコボックス報告 田口理紗会員



◆豊田文智会員
米山記念奨学会委員長の森秀樹様、本日は卓話ありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

◇倉島和弘会員
国際奉仕ロータリー財団委員会、委員長の倉島です。恒例ではありますが、今年も11月が財団月間となります。皆さまのご寄付宜しくお願い致します。

◇渡邊慎司会長
アクアコインでの支払いをできる様にしました。地域経済発展の為にスマホへアプリをインストールしてみてください。

～ロータリーについて知ろう～

第13回目



2021-22年度国際ロータリー会長エレクトをご存知ですか。Windsor-Roselandロータリークラブのジェニファー E. ジョーンズ氏です。ウィンザーにある Media Street Productions Inc.の創業者兼社長です。女性初の会長に選出されるにあたり、ジョーンズ氏はロータリーの「多様性、公平さ、インクルージョン (DEI) に関する声明」の重要性を理解しています。「多様性、公平さ、インクルージョンを最優先し、女性会員や40歳未満の会員を増やすには、まずリーダー陣がこれを実践し、そのメンバー構成に反映させていく必要があります」とジョーンズ氏。「どちらの目標でも2桁の成長を目指し、決してロータリーファミリー全体を見失わないようにします」と述べています。

ジョーンズ氏は超我の奉仕賞、ロータリー財団功労表彰状を受賞しているほか、夫のニック・クラヤシッチさんと共に、アーチ・クラフ・ソサエティ、ポール・ハリス・ソサエティ、ロータリー財団遺贈友の会の会員となっています。

木更津東ロータリークラブも女性会長が待ち遠しいですね。

■例会アワー

◆米山記念奨学会委員会

国際ロータリー第 2790 地区
米山記念奨学会委員会 森 秀樹委員長



「米山記念奨学会の基礎」

本日はお招きいただきありがとうございます。日頃はロータリー米山奨学事業にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

本日のテーマは「米山奨学事業の基礎」ですが、ベテランの会員さんやPETS、RLIなどのリーダーシップ研修を終えられた方には振り返りとしてお聞きください。

まずは概要と設立の過程からです。日本のロータリークラブ独自事業であり、目的は設立時から一貫して「日本で学ぶ留学生の支援」で、特徴としては奨学金を渡すだけではなく、世話クラブ・カウンセラー制度をもうけ物心両面で留学生を支えています。「米山」と個人の名称が付いていると財を成した方が私財を投じて行っている様ですが（ビルゲイツ&メリンダ財団…）米山梅吉翁の死後 1952 年東京ロータリークラブにより「米山基金」として誕生しています。

2021 年までに 129 の国と地域（日本が承認している国 196）から累計 22,267 人の留学生を援助してきた国内最大の民間奨学金です。奨学生の選考基準は「留学の目的将来の目標」「交流への熱意」「人間性人柄」「コミュニケーション能力」そして「地区裁量」です。選考基準には「個人の経済状況」は無いので「GDP で日本を抜いた国に支援するのはいかなるものか」など関係無しです。2790 地区の独自基準として「国籍の偏り是正」「継続留学生採用の制限」を掲げています。この厳しい選考基準を突破した学生を私たち地区委員会では自信を持って世話クラブに送り出しています。

米山奨学事業は先程も説明した通り、私財ではなく我々ロータリークラブの会員からの寄付で成り立っています。近年は 13~14 億円の寄付金実績があり、事業費の内訳として管理費は今までの積立金の利息で賄い、皆様からの寄付金はほぼ全額奨学金に充てられています。皆様から寄せられた寄付金は二種類「普通寄付」と「特別寄付」です。普通寄付は半期ごとにクラブの会員数の応じて振込んでいただい

ります。なぜ二種類あるのかとお思いでしょうが、1967 年の財団法人化の際に当時の文部省より「財政の健全化」のために課せられたもので、日本の全てのロータリークラブが同意しております。特別寄付については 10 万円ごとに表彰制度がありますが 1 円からでも出来る寄付金です。金額の多寡にかかわらず幅広い皆様からの寄付をお願いしており、寄付者の割合も将来の 2790 地区に割り当てられる奨学生の数（今年は 28 人+海外応募者 1 人 来年は 26 人）に影響しています。どうぞよろしくお願ひいたします。

米山奨学生は 1 年または 2 年の奨学期間を終了すると米山学友となります。2790 地区では学友連絡会があります。そこではロータリー財団学友やローターアクトも一緒になって活動しています。2021 年 3 月には皆様のご協力もあり素晴らしいコンサートを開催することが出来ました。今年度も学友たちでコロナウイルス感染症予防の啓蒙活動が進行中です。

8 月 28 日の委員長セミナーのおさらいになりますが、ハラスメント研修は各クラブで進めて下さい。2019 年の RI 理事会よりロータリアンの行動規範⑤の追加や米山記念奨学会と地区ガバナーそして世話クラブの間では業務委託・覚書の締結が 2020 年より始まっております。

この様に米山奨学事業は我々日本のロータリークラブより生まれた事業であり、財団法人への寄付なので税制優遇を受けられる高い透明性を持った奨学事業です。このコロナ禍で例会もままならない日々が続いておりましたが引き続きご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。



森様、ありがとうございました！

◆点鐘 13時30分 渡邊慎司会長